

※ 学院創立 110 周年記念号 ※



テーマ

建学の精神

「愛をもって仕えよ」
を感じる瞬間



1913 (T2) 年 柳城幼稚園 園庭

理事長メッセージ 森 紀旦

「愛をもって仕えよ」。これは柳城学院の建学の精神です。本学院創立の時以来、この自分が他者を生かすものとしての精神、また逆に自分たちが生かされ励まされるものとしてのモットーが、脈々と現在まで受け継がれています。

この「愛をもって仕えよ」と言う文言は、新約聖書中の「ガラテヤの信徒への手紙」第5章13節による言葉です。その正確な文章は「愛によって互いに仕えなさい」と、「互いに」が加わっています。聖書から何か自らの信念を表す言葉、座右の銘、大学など諸学校の建学精神にふさわしいものを探するとき、この長いキリスト教史の中で、そのままの言葉を使用する場合、また少し変えて採用するもの、言いなれていた有名な聖語をそのまま用いることなどがあります。それらは言葉のおかれた文脈を無視して使われたことも多いようです。「愛をもって仕えよ」はそのような経過を経て、「互いに」は当然のこととして意識されていたのでしょう。

新約聖書の原語はギリシャ語ですが、「愛」を表す言葉はいくつかあり、「愛」の豊かな諸面を教えています。建学の精神の「愛」はアガペーと言って、キリスト教の拡大に従って広く用いられてきました。その意味は「自らを棄ててまで他者を生かすこと」であり、愛という大変感情的になります。当然感情面を発揮しながら他者に向かうという方向を持っています。キリスト教は「愛の宗教」であると言われます。少しお高く留まって、他者に親切にする、情けをかける等々どこか上品でこちらは傷つかないで、他者のためになるという具合です。しかしアガペーという愛は違いました。その愛を

もって「仕えよ」という原語はドゥーレウオーで「奴隷として仕える」という意味です。徹底して他者を高くしひたすら他者を生かすためにわが身を使うことです。それは理想だ、本来の人間には不可能なことだ。歴史上のそのように行き通した人はいるのか？

いるのです。イエス・キリストです。教会という共同体と個人の営みとしての聖書朗読その他などによりそれが明らかになります。教会も人間がこのように生きられるとは思っていません。そのように生きた人もいないかもしれません。基本的には生きられると考えていませんが、「愛をもって仕えよ」を私たち人類・自然のために生きてくださった方がいるのです。どうぞ名古屋柳城短大におられる間に、この私のために、いや私たちのために、建学の精神が表す大変重要な大きな喜びを知ってください。イエス・キリストのどんな小さなことでも知ることにより、「愛をもって仕えよ」この大変意思的な生き方を繰り返し繰り返し行うようにイエスによって励まされるのです。「愛」は弱者に向かいます。それは「この私」の喜びにもなって帰ってくるのです。建学の精神の愛は私たちの毎日に関わっているものです。校内でも外でも生かしてください。

この学校を卒業あるいは終了すると建学の精神の極めて具体的な相手に出会うことになります。肉体的にも精神的にもいろいろな「子どもたち」「若い人たち」「お年寄りたち」その他の人々に出会います。名古屋柳城短期大学で「愛をもって仕えよ」の染み込む日々を過ごしましょう。

名古屋柳城短期大学

新学長からのメッセージ



新海 英行

創立110周年を機に
さらなる充実・発展を

柳城の伝統を継承し、
さらに発展

本年4月より本学に着任しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、本学の近況から述べたいと思います。昨年度、日本短期大学基準協会の適格評価を受け、みごと認証されました。

「愛をもって仕えよ」という建学の精神のもと、一貫した講義要綱がつけられ、すぐれた学生指導が行われている、教員の教育・研究活動も高いレベルに達しているとの、評価をいただいております。本年の卒業生も100%の就職率（ほとんどが幼児教育関係の職場）を達成しました。学生たちの努力はむろん、本学の教職員の誠実な指導の賜でもあります。新入生は保育科が198名と2名の欠員が生じましたが、みなさん元気に勉学に励んでいます。みなさん顔を合わせたらさわやかな挨拶をしてくれます。さらに柳城の紙芝居も新聞の報道や名古屋市の支援などあつて、これまで以上によく知られるようになりまし

た。嬉しい限りです。

しかし一方では問題もなくはありません。少子化の中で大学間の競争が激化し、厳しい時代を迎えています。それだけでもっと多くの受験生を確保しなければなりませんし、学生たちが快適に学習できる環境づくりも求められています。ここでは、今後これまでの柳城のすぐれた伝統を引き継ぎ、さらに発展させていくうえでどんな課題に取り組むべきか、について述べてみたいと思います。

新たなニーズに応え 協働と連携

当面取り組みなければならぬ第一の課題は短期大学の存在意義の探求です。近年の高校生の進路意識、進路選択の特徴的な傾向を把握すべきですし、短大卒業生への社会的ニーズを捉え、そうした個人的、社会的要請に対応する短大教育

のあり方が明らかにされる必要があります。特に本学の場合、上述のような視点からキリスト教の理念にもとづいた保育者や介護福祉士の養成のあり方が積極的に検討されるべきではないかと思えます。こうした検討が四大化の是非を考える前提作業となるはずで

第二の課題は、短大と附属園の協働です。いうまでもなくそれぞれの教育研究上の資源は大きなものがあります。附属園の実験研究園としての存在価値をいかに存分に引き出し、短大の教育研究に活かすか、いいかえれば相互の交流と共同研究を重ね、実践と理論の結合の機会をどう広げ、深めるか、という課題です。

短大と附属園が車の両輪のように機能するために双方のメンバーから成る研究所の活性化が必要になるものと思えます。

第三の課題は、高等学校との連携です。AO入試を

はじめ、高校での模擬授業、大学祭への招待、高校の総合学習への協力、高校の部活への学生のボランティアリポート、高校教師との共同研究など、大学と高校の共存共栄のための戦略が一層深められ、恒常的なプログラムとして展開されるべきではないでしょうか。

学外との密接な コミュニケーション

第四の課題は、広報広聴活動の強化です。高校生が大学選択を考えるうえで有力なメディアとなっているホームページをはじめ、高校訪問も積極的に取り組みたいと考えます。そのさい大学側の一方的な情報提供に終わることなく、高校生の進路選択や高校の進路指導の実情を把握し、大学への期待や要望を聞き取るなど、双方向のコミュニケーション

ションが欠かせません。広聴活動が大学改革への貴重な情報をもたらしてくれるからです。

さらに第五に、社会貢献の拡充です。とくに地域における子育てや福祉や生涯学習などへの大学貢献、つまり大学資源の地域還元です。地域では公民館（生涯学習センター）など、公的な生涯学習施設を拠点とする生涯学習活動が広がっています。また、さまざまなボランティア・NPO活動も育っています。こうした活動を担う市民の学習支援に大学がもっと強力にコミットしたいものです。

柳城の真価を発揮できる時代

ユニバーサル段階（M・トロ）（高等教育進学率50%以上）に入った日本の大学は、高校教育を補完しつつ教養教育と専門

教育の質的充実をはかり、加えて地域・市民の生涯学習のニーズにも応えていかなければならない時代を迎えています。このほど策定された文部科学省の教育振興基本計画は家庭教育と小学校教育との連携をこれからの幼児教育に求めています。教育再生懇談会も幼児教育の無償化など、幼児教育の重要性を提言しました。また私立短期大学協会は介護福祉をめぐる環境条件の改善を要望しています。

柳城は本年、創立110周年を迎えました。こうした時代の要請を真摯に受けとめ、「愛をもって仕えよ」との建学の精神のもと、柳城の真価を発揮できる時代がやってきたと確信します。これまで以上に附属園はむろんのこと実習協力施設と協働し、高校との連携を重視し、幼児教育や介護福祉をライフワークとして選択する有為な人材を育成したいと心から切望しています。皆様のさらなるご協力、ご

同窓会だより



同窓会会長
道 青山

柳城創立110周年おめでとうございます。私たちはこの記念すべきときに居合わせたことをとても幸せに思っています。

去る5月31日（土）110周年を記念して、同窓会を開催いたしました。学長先生を始め諸先生方のご出席をいただき昭和九年卒のおぼあちやまから、今春卒業されたもっとも若いお嬢さんまで、歴史の長さと重さを改めて知らされる70名の会で礼拝をし、続いて総会・校歌をなつかしくうたいました。

支援をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

今回はクラリネットの演奏をお願いしましたので、さわやかな音色に皆心をなごませることができました。会場にはお寄せ下さったお返事のメッセージを一部大きく抜粋して掲示しましたが、いただいた葉書からクラスメートの近況を探して昔をなつかしく思い出す場面もありました。メッセージをおよせ下さった方々本当にありがとうございます。

みんなで和やかに会食し楽しいひとときを過ごすことができました。外は静かに雨の降る日でしたが遠方よりおいで下さった方々、何十年ぶりのクラスメートとの再会も多くあったようです。学生時代厳しかったが充実していた毎日、今思いかえすとお勤めして解ったこと、家庭に入り、子育てとして柳城でのことがと

ても良かったとのお便り、ご高齢にもかかわらず幼子たちのために現役で今もご奉仕されている方々、どなたも柳城での学びに誇りと感謝のことばが綴られています。「BY LOVE SERVE」の精神は今も卒業生の心の中にいきつづけています。

私たちは柳城が益々発展され現代の社会の中で多くの卒業生が活躍されることを願っています。学生の皆さんは柳城での学びや経験を大切にそしてしっかり体得して、いつまでも誇りのもてる学校づくり、伝統作りのただ中にいる幸せを知っていただきたいと思います。来る11月3日（月）柳城祭のときに「ホームカミングデイ」を催し、名古屋聖マタイ教会ホールで卒業生の集まりを行います。どうぞ多くの方のおいでをお待ちいたしております。良い交わりと実り多い日にしたいと思っています。

記念特集



創立 100 年から 110 年へ

～この 10 年の歩みと今後～

短大教授 成田 朋子

◆はじめに

愛知県芸術劇場コンサートホールでの記念音楽会、聖路加国際病院理事長日野原重明先生をお招きしての記念講演会等の記念行事が行われた学校法人柳城学院創立100周年からはや10年の歳月が流れました。その後の10年間の歩みを、短大を中心に振り返ってみたいと思います。

◆1998年

(学院創立100周年)

創立100周年にあたる1998年度は、前年にスタートした定員15名の専攻科保育専攻に続き、定員30名の専攻科介護福祉専攻がスタートし、1階に学生ラウンジのある4号館が建てられ、1学年15名定員の保育科と保育・介護福祉両専攻科からなる今日の短大の基礎が確立した年となりました。

その後、教育職員免許法・同施行規則改正、幼稚園教育要領および保育所保育指針改訂に伴う新しいカリキュラムを編成し、2000、2001年には専攻

科、保育科を男女共学とし、2003年度には、短大創設50周年を迎えたのです。

◆2003年

(短大創設50周年)

短大創設50周年は、柳城学院創立105年、介護福祉専攻開設5周年と、区切りの年でもありました。

渡辺哲雄氏をお招きしての5周年記念講演会、愛知国際病院川原啓美理事長の合同礼拝、京都大学霊長類研究所松沢哲郎先生の50周年記念講演会が行われ、また柳城学院百年史も刊行されました。

◆2006年

(短大入学生定員増)

その後2006年には入学生定員を15名から200名に増員し、保育者の資質を備えたよりよい学生を得るために、公募制推薦、一般入試の他に指定校推薦、同窓生推薦、AO入試等多様な選抜方法による入学試験を導入しました。

また、新たな試みとして、紙芝居の情報センターをめざす本学独自の活動「子ども文化と紙芝居プロジェクト」を立ち上げました。

本学独自科目「保育基礎演習」を開講する等、学生指導への熱意は、平成18年度私立大学教育研究高度化推進特別補助(教育・学習方法等の改善)に、「情報リテラシーを涵養する自習環境の整備」、「図書館の開館時間延長と情報支援サービスの充実」、「保育者養成におけるマルチメディア教材の開発と活用」、「リアリティのある教育」を目指して、「保育者養成を支えるアドバイザー制度の拡充」建学の精神から導き出された人間教育の展開、「学生が創る『りゅうじょう子どもフェスタ』」の5課題が採択されたことにも現れていると言えるでしょう。

◆2007年

(第三者評価)

以上のように、建学の精神「愛をもって仕えよ」に導かれ、一人ひとりを大切にする歴史に

支えられ、保育者養成一筋に邁進してきたことにより、現在、就職率100パーセントの短大として、教職員一同、何よりも学生サービスを第一に励んでいます。

そして、このような努力が2007年度第三者評価受審に活かされたと考えられます。

1999年度に平安女学院短期大学との相互評価を行い、また、毎年自己点検評価報告書を刊行してきた経験を活かして、短期大学基準協会のマニュアルに沿った報告書を編集し、受審に備えました。2007年9月に5名からなる評価チームの訪問調査が行われ、本年3月には、短期大学基準協会から機関別「適格」評価の認定を、領域別評価でもすべて「合」の評価を受けることができました。本学のこれまでの歩みが認められたのです。

大学全入時代を迎え、本学もこれまでにない厳しい状況におかれてはいますが、これからも全学あげて保育者養成に努力したいものです。

創立110周年

生き続ける建学の精神！

短大教授 尾上 明子

◆あるご老人の心に生き続ける
建学の精神

この4月、二人のご老人が突然、本学を訪ねられました。

丁度、玄関に居合わせた私は、きっと本学の卒業生の方だろうと思いついてお話を聞くことにしました。お話を聞くと、戦後、本学が現在地に移り、昭和27年に研究所（幼稚園）ができたのですが、その最初の卒園生（ご長男、園田猪一郎さん）のお母さまと長女の方でした。今、東京からやってきたばかりであること、柳城がとても懐かしいので、ともかく思い出しながら探し訪ねてみたこと、今、88歳で死ぬまでに一度懐かしい名古屋（柳城）を訪ねてみたかったこと、一泊し明日はその研究所時代のお友達（保護者）と会うことなどを話してくださいました。

ご主人の勤めの関係で名古屋には10年ほど住まわれたそうですが、柳城のお母さま同志の交わりがずっと続いているとのことでした。

長女の方は、ご自分のときは研究所がなかったので、弟が羨ましくて仕方なかった、弟とともにいたくさんの思い出があることを話されました。事実、自分の園のようになんでも知っておられました。

その頃、まだ戦後の物資が少なく、貧しい時代にもかかわらず、研究所は、美しく、カナダからの素敵な玩具がたくさんあり、ホーキンス先生や坂東先生、高橋先生など素晴らしい先生方がおられ、息子さんは毎日楽しく喜んで通園されたそうです。母



昭和31年 研究所

の会などを通して行われたお母さま同志の交わりも、いろいろな企画があり、本当に楽しかったと熱く語られました。

息子さんは社会人になられたとき、わざわざ東京から懐かしい柳城を訪ね、高橋先生に初月給からプレゼントされたということです。今その息子さんは、還暦を迎えられました。自律

◆附属幼稚園の10年

最後に附属幼稚園についておふれておきたいと思います。2000年に柳城、瑞穂、豊田三附属園に三好ヶ丘聖マリーガレット幼稚園が加わりました。開園にいたるまでには、建設委員会が組織され、短大教員も加わって、園舎の細部にわたり検討を重ね、保育の理想を語ったことが懐かしく思い出されます。その一方で、2003年に瑞穂幼稚園がやむなく閉園となったことを残念に思います。



記念特集

的な精神を育てられた柳城をほこりとして、新たなお仕事を始められたそうです。

お母さまのお話は、懐かしさと感謝の想いに溢れていました。現在も脈々と続いている本学の発展を喜んでくださり、共に幼児教育の大切さを語ったことです。このお話を聞くほどに私は、このお母様にとっては80年以上も、また、息子さんにとっても長く新鮮な想いで、生きつづけている柳城の精神を考えざるをえませんでした。目に見えない精神（スピリット）が今も生きつづけているこの現実には深い感動を覚えました。

◆今も卒業生へ受け継がれる建学の精神

さて、柳城の卒業生は、建学の精神「愛をもって仕えよ」（新約聖書ガラテヤ5…13）を持って各地で活躍しておられます。ある人は、現職で、ある人は、家庭や地域社会で。

ある施設に伺ったときのことです。その施設には、もう30年になろうと

する指導的な立場の方と10年になろうとする中堅である卒業生が活躍されています。その施設の責任者は、現在勤めている二人の方と、かつて勤めた本学の卒業生を何人も見てきて、「何かが違いますね」とおっしゃってくださいました。そして、「それは柳城で培われた精神、キリスト教に触れてきたからではないですか？」とも言われました。

働く中身が違うということを見抜いておられたような気がします。在りがたいお言葉です。それは、他の人や子どものために、誠意を持って仕える姿をさしているのだと思います。

また、かつて幼児教育を学んだ私の知人は（柳城の卒業生ではありません）、ある幼稚園で「自分のお子さんを柳城の卒業生に担当してもらい、そのお子さんが卒園したとき、うれしさのあまり私に電話をくださいました。「柳城の卒業生は、すばらしいですね！息子が、毎日喜んで登園し、ひ弱な子どもがとても逞しくなりました。本当に本当に感謝しています！」と。



研究所第1回卒業生 園田猪一郎さん
(前列右から2人目)

それは、まさに、卒業生のなかに蒔かれた種「建学の精神」が命をもって生きつづけている姿ではないでしょうか？私の知るところはほんの一部であって、おそらく、そんなすばらしい卒業生が全国で花を咲かせ、実をならせておられることでしょう。

◆「一粒の麦」と建学の精神

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」

(ヨハネ12…23)

このみ言葉は、建学の精神であるみ言葉とよく似ています。愛を持って、互いに仕える（奴隷になる）、それは、自分に死ななければできないことです。しかし、それができたとき（種が死んだとき）、そこから新しい命が生まれます。その命は生き続ける命です。

実は、自己中心的な私たちにとって、それはとても難しい事柄です。ヤング先生によって蒔かれた、種（柳城の精神）がこれからも、命を持っていきいきと生き続けることができますように！

創立110周年

～110周年に寄せて～

誕生日のための祈り

司祭 相澤 晃



柳城創立110年おめでとうございませう。かつて専任チャプレンとして20年、非常勤講師として6年柳城に関わりました。柳城時代の思い出はあちこちで書きましたので、今回は大学の公的礼拝の中で、たった一つだけ、教職員・学生個人のために祈り続けた楽しい祈りのことを記させていただきます。それも私にとって「愛をもって仕えよ」の建学の精神を生きる大切なもののひとつでした。それは、大学礼拝で、その週に誕生日を迎える教職員・学生の名前を一人一人読み上げて祈ったことです（今も続いているかも知れませんが……）。この祈りはいろいろな意味で反響がありました。それは、この祈りに学生から何かとクレーム？がついたことです。まず、春夏秋冬の長期休暇中に誕生日を迎える学生は

祈ってもらえないという苦情です。そこで、長期休暇前の最後の大学礼拝で、その間に誕生日を迎える学生をまとめて祈りました。しかし、これにもクレームがきました。誕生日がまだ一カ月も先なのに、そんなに早く祈ってもらっても実感がわかないと……。そこで、長期休暇中に誕生日を迎える教職員・学生には祈りを込めて誕生日カードを送ることにしました。これは結構大変なことでした。誕生日に配達されるようにポストに入れるタイミングがです。私の海外旅行中は、ポストに入れるタイミングを妻に依頼しました。ところが、今度は休暇中でない日に誕生日を迎える学生から、お祈りもいいがカードも欲しい！と言われたり……。でも、これらの反響はすべて嬉しいものでした。イエスさまが誕生日を迎えた教職員・学生一人一人を祝福してくださり、これからの彼らの人生の歩みにふさわしい恵みを注ぎ続けてくださるようにと祈る祈りはチャプレン冥利につきるものでした。誕生日の祈りは学生の家庭

での話題にもなったようです。一例を記させていただきます。84年6月30日の中日新聞夕刊の「ハイ編集局です」というコラムにこんな投書が載りました。「うちの娘はいま名古屋市内のミッション系短大の保育科へ通っています。この学校では、礼拝の時間に、その週に誕生日を迎える学生が祝福を受けるのだそうです。

柳城での思い出



私が柳城女子短期大学に入学したのは、1955年4月でした。子供の頃から母よりボーマン先生との楽しい学生生活の様子を聞いており、薦められて柳城を受験しました。

1年生は27名で2年生と合わせて50名程の日本中で最も小さい大学でした。学生の多数が寮生でした。敷地内には校舎、研究所（本園）、学生寮、ホーキンス学長の家があり、

この週の該当者はうちの娘だけだったそう、一人だけで全校の祝福を受けました……。柳城退職後いただいた卒業生からの手紙にしばしば記るされているものは、「チャプレンからいただいた誕生日カード、聖書に挟んで大切にしています」というものです。

評議員 渡邊 信子

すべて木造でした。寮生だった私達は、毎日っかけ下駄でカラカラ音をたてて登校していました。上靴に履きかえ、毎朝本園のチャペルで礼拝をして授業が始まりました。礼拝の奏楽は学生全員が交代でしました。掃除も全員でふき掃除、手で雑巾をしばって行いました。毎週一回（午前中）実習があり、四つの附属園（本園、白壁、御器所、瑞穂）を二年間で廻りました。年間を通して子供達や先生方と接することが出来たのは、保育の流れを知る上でも良かったと思います。運動会は附属幼稚園と短大生が合同で校庭で行いました。私達は、ダンス仮装行列などで参加

記念特集



～110周年に寄せて～

しました。

少人数のため授業中も何度も先生から当てられ、いつも集中していません。体育の時間で愛教大へバレーボールの試合に出かけた事もありました。(お揃いの青い体操服を着て)

寮生活は1年生と2年生が二人ずつの四人部屋でした。寮監の櫛山先生とお手伝いの、さと子さんを中心に食事を作って下さいましたが私達も当番で手伝いました。朝、皆のお弁当を詰めるのは大へんでした。朝祈から晩祈まで集団生活でした。日曜日は近くのマタイ教会へ出席し、安息日を守り掃除洗濯も禁止で、本を読んだり友達同士集って聖歌やフォークソングを歌って過しました。月曜日が休日でしたので洗濯や買物に出かけました。時間割をくんで夜遅くまでピアノの練習も出来、三つのピアノ室はいつもいっぱいでした。

ホーキンス先生は学生四、五名位づつを先生のお宅へ食事に招いて下さり、お一人で、接待をして下さいました。その折テーブルマナーも教えて下さいました。柳城での二年間は、あたたかい先生方のご指導といういろいろな人達との関りを通して充実した日々を送ることが出来感謝でした。

た。

保育の現場に立った時、BY LOVE SERVEが思い出され、子供達一人一人を大切に謙虚で共に育

のぞみの会

東京支部の集いとお誘い

小松 伯子

つよう願って来ました。

現在評議員をさせていただき柳城へ戻って来たように思います。

柳城学院が創立110周年を迎え、記念礼拝および、イベントが開催されます。私たちが在学中に60周年の記念行事が開催され、それから半世紀も生き延びたと言うか、生かされた事に、驚きを禁じ得ません。在学中の大きな出来事は、名古屋を直撃した伊勢湾台風に遭遇した事と、社会的なニュースは現天皇と美智子妃のご成婚でした。寮に1台しかない白黒テレビに鈴なりに重なって、見た記憶が鮮明です。当時の、寮生は、北海道から九州まで居り極めてローカル色豊かな1年生と2年生が同室の、家族のような付き合い、又寮の自治に関する当番の仕事などを通して、少人数が一層密接に交わり合い、当時はともかく、今思い返すとそこで育てられたなあと、感慨一しきりです

「愛をもって仕えよ」の校訓通り、

卒業生は、様々な場で黙々と働いていると伺っています。教会でも柳城生は前向きの姿勢で礼拝をはじめ、オーガニスト、その他の奉仕に取り組んでいるようです。のぞみの会東京支部(同窓会)では、関東地方在住の人とは限りませんが、卒業後東京近郊にいられた方達と会を持っており、柳城で培われた愛にあふれた、楽しい交わりが為されております。同窓会は懐かしい、楽しいだけでなく、私たちの受けている恵みの分かち合いだと思います。皆様とお話するだけで、他のどの会とも違う味わいのあることに、きっと気付かされる筈です。そこに、神様がいて神による平和と恵みと、感謝に満たされます。

私が一番感動するのは、先輩達の愛の実践が、この会に受け継がれていることです。在校生の皆さん、東

京近在に居を移されたら、是非東京支部にお入りください。正直言って悩みは、平成以後の会員が分ならず、名簿登録ができていないことです。110年の伝統ある柳城を、卒業生もい形で存続させ、お祈りをもって、支援していきたいと思ひます。皆さんのご一報を待っております。柳城学院の、更なるご発展と祝福が与えられますように。(編集者追記…筆者は三好丘聖マールレット幼稚園元園長)

東京支部に登録してください

平成以降の関東地方に在住する柳城卒業生を探しています。どうぞ、ご紹介ください。

連絡先

名古屋柳城短期大学同窓会東京支部連絡所 小松伯子

電話

0465-83-7080

e-mail

originalday1936811@

yahoo.co.jp



創立110周年

柳城学院創立110周年 記念事業一覧

☆感謝礼拝：11月1日（土）

柳城短大体育館にて

☆記念講演会：同日

同上、講師 東 喜代雄先生

☆ピアノサポート講座：（下記）

☆屋外広告塔（懸垂幕昇降装置）：

柳城短大1号館の東壁面に垂れ幕広告を行う装置の設置

☆ホームページ改訂：

より見やすい画面製作と、ブログによるタイムリーな情報提供

☆クリスマスコンサート：12月23日（祝日）

名古屋市芸術創造センターにて

☆創作紙芝居の配布：

紙芝居プロジェクトの作成した創作紙芝居「ひみつきち」を、東海地区の幼稚園保育園等に配布

☆子どもフェスタ公演：

柳城短大学生による音楽劇・人形劇を附属幼稚園児や地域の子供たち等を対象に公演

☆お花のプレゼント：

附属幼稚園児が手植えた花のプランターを施設等へ配布

110周年記念事業について

柳城学院は、本年創立110周年を迎えました。カナダ人宣教師マーガレット・M・ヤング先生が、名古屋市白壁町に女性と子どものための教育を始められたのは1898年のことでした。外国人宣教師達の熱い思いが、「愛をもって仕えよ」という建学の精神に脈々と流れ続けた110年であります。

110年の長き歴史と諸先達の貴重なお働きに感謝し、これからの柳城学院の発展を願って、110周年記念の活動を左表のとおり企画しました。

これらの活動は、歴史を通して示された神の御心に感謝すること、「柳城」の良き教育・伝統を広く世に知らしめることを目的としております。ささやかな活動ですが、「保育の柳城」が子どもの教育の世界に確固たる地位を今後とも占め続けていけるよう皆様のご支援をお願いいたします。

ピアノ技術の向上を支援 ピアノサポートシステムを新設



『柳城の学生はピアノが上手。』本学は、多くの幼稚園や保育園の園長先生方からこのように評価されてきました。

ところが最近では、入学試験方式の多様化等の影響もあって、入学してくる学生のピアノ演奏能力は年々下がる傾向にあります。

そこで、創立110周年を記念に、ピアノ初心者のための『ピアノ

サポートシステム』を開設することにしました。本学の音楽担当教員が、正規の授業とは別に個別指導に当たります。特別教室整備、電子ピアノ12台の購入するにあたっては、同窓会、保護者会からも多大のご援助をいただきました。全学生がピアノの力を養い、自信を持って現場へ巣立ってくれる契機になればと願っています。

附属幼稚園だより

柳城幼稚園

柳城幼稚園は、お隣に名古屋聖マルコ教会があり、園庭から教会の屋根の上の十字架を見上げることができます。

以前、園庭で鬼ごっこをして遊んでいた子どもが教会の入り口に体を丸くして隠れ、「先生、ここは神さまが守ってくれるから、見つからないよ。」と先生を誘ったという話を聞きました。

毎月のお誕生日会には、誕生月の子どものお母さんも一緒に、教会で礼拝に参加します。チャプレンの大和田先生から、祝福を受け、お話を伺います。

先生の「生まれてきてよかったね。」の語りは、日頃子どもを叱ることの多いお母さん方にとって、ふと、あの分婉台でわが子に出会えた時の感動を再び思い出させてくれるひと時でも

あると思います。

その後、園に戻り、皆でお祝いをします。園からは、手作りの冠、担任のメッセージと絵本がプレゼントされます。そして、お誕生日の子どもは、チョコペンで絵を描いたケーキをお母さんにプレゼントします。渡す時は照れてしまってお母さんに何も言えない子どももいます。恥ずかしそうに小さな声で「ありがとう。」と言ってお母さんの胸に飛び込み、抱きつく子どもいます。涙ぐむお母さんもいらっしゃいます。

今年度からは、子どもの生まれた時のエピソードをお母さんに話していただいています。

今月は、予定日になってもなかなか赤ちゃんが生まれなくて大変だったお話やお母さんのお腹を切って生まれてきたお話を



を聞きました。

一人ひとりが愛されて生まれてきたことを知って欲しいと願っています。そのことにより自分の命も、人の命も大切にする子どもに育っていくと思います。

毎回、この日の昼食は、年長児が前日に野菜を切って煮込んだカレーライスです。年長組になるとカレーライスを作れることが、小さい子どもたちの憧れとなっています。

近頃は、毎朝、門の所で三輪車に乗ってお友達の登園を待っている年少組の子どもたちが増

えて来ました。「○○ちゃん、まだ来ないよ。」と、お友だちの名前をもうすっかり覚えたようです。

子どもたちは、けんかもよくします。けんかをする事で、自己主張を覚え、勝ったり負けたりするうちに「思いやり」を身につけます。仲がいいからけんかをし、けんかをするから仲が良くなっていくと思います。

私は、以上書いたような普段の何気ない子供たちとの関わりの中に、目には見えないですが、温かな「愛」の営みを感じます。そして、私たちは、神さまに守られ、許しの中にあることを感謝し、お互いに補い合って温かい保育をし、子どもと共に育ち合っていく者になりたいと思っています。

豊田幼稚園

入園してまだ間もない頃。テラスで飼っていた亀の水槽（プラスチックのたらい）の淵でAちゃんがしがみこみ、小さな手を組み合わせ、ぎゅっと目を

閉じて何やらぶつぶつ…。どうしたのかなと、そっと傍にやってみました。ぶつぶつ言っていた言葉に聞き耳をたててびっくり。「カメ様…カメ様…」とお祈りをしている様子。

神様？ カメ様？ と内心ちょっと首をかしげながら、あどけなくかわいいお祈り(?)をする姿に心うたれたことを思い出します。おじいちゃんが救急車で運ばれたのを見たAちゃん。ただならぬ家族の様子や一目見ていつもと違う祖父の姿に、彼女は覚えての神様に向かって、すべてをゆだね祈ったのでしよう。

神様の存在もまだおぼろげだったのに…。小さな心は神様に向き合い、共に居てくださる神様のことを感じていたのです。

また、こんなこともありました。園庭のあちらこちらにおいてある草花用プランターの下に住んでいるダンゴ虫を捕って遊ぶのが子どもたちは大好きです。いわゆる「ムシケラ」ですが、子どもたちにとっては、大切な生き物のひとつです。

帰り支度を済ませたB君。た

くさん捕ったダンゴ虫を抱え、花壇の方へ走っていき、カップの中のダンゴ虫を花の根元に逃がしました。たくさん捕れたと自慢げに見せてくれていたのに...。と思って見ていたところ、「お母さんのところへ行きたいって言ったから。」との事でした。

降園時間になり、迎えに来てくれる母親のことをふと思った時、私たち大人には聞こえないダンゴ虫の声が聞こえたのでしょ。B君は生きている虫の家族を想い、そして小さなダンゴ虫の命に気づいていました。

そして、K君もダンゴ虫が大好きな一人です。その日もたくさんさんのダンゴ虫で一杯になったカップを持ってうれしそうにかけていきました。と、その時、足もとの草にひっかかり、大事なカップを草むらの中にひっくり返してしまいました。さあ大変。

草むらの中のダンゴ虫は拾うにも拾えません...。きっと大泣き、と思いきやK君の言った一言、

「すごい マジックだね！全部いなくなっちゃった。」と大喜びでした。

意外な展開に胸をなでおろしながら、プラス思考のK君に乾杯！といったところです。

このように、豊かな感性を持った子どもたちと共に過ごす日々は、私たちに様々な事柄を通して、たくさんのことを気づかせ、そして、感じさせてくれます。毎日が起承転結のドラマのようです。この平和で豊かな日々をお与え下さる神様に心から感謝です。



三好丘聖マーガレット幼稚園

柳城学院110周年を迎え、幼稚園で働かれた多くの先人のお働きに感謝し、その建学の精神を基に保育する恵みを、とても嬉しく感じています。園の子ども達は、毎日お礼拝をして一日を始め、日々あたりまえと感じているささやかな事一つ一つを、神さまに感謝して過ごしています。

最近のマーガレット幼稚園の様子をお知らせします。

先日、年少組が身体測定をしました。いつもこの機会を縦割り保育とし、年長組が手伝います。その日のこども達の様子には、とてもほのぼのとした関係が繰り広げられています。

その一つを紹介します。慣れない手つきで洋服を脱がそうとすると、小さな声で「痛い！」。本当に困ったお兄さんの顔。先生のアドバイスをうけてもう一度！ やっと脱ぐ事が出来た時、二人は顔を見合せて安心の笑顔でニッコリ！ お兄さんは脱いだ洋服を直ぐ着れ

るよう、袖も直して丁寧にたたんであげました。年少の子どもはお迎えのお母さんに、一番にお兄さんの奮闘振りを伝えていました。きっと三年後はこの子も優しく年少組のお手伝いをしてくれることでしょう。

自閉症のT君のお母さんが話してくれました。自閉症児サークルのときは物の取り合いが多く、思い道理にならないと相手に手がでるのでとても心配でした。でも幼稚園へ入園したら回りのお友達が皆優しく、「かして！」と言うと「いいよ」と言って貸してくれる経験から「かして」が言えるようになり、叩かなくなりました。家庭でもとても穏やかになりました。と驚いてくださいました。

愛されていることを知って、愛する者へと成長する子ども達です。

今年、保護者の有志の発案で「おやじの会」が立ち上がります。



ボランティアで園庭の整備、遊具の整備などをして下さいます。貴重な休日をこのように使おうとしてくださるお父様達に感謝です。

110周年を記念して、子ども達は環境に目をやり、ゴミ処理場の見学をしたり、エコのお話と紙芝居を見たり、子ども達が絵を描いたプランターにお花を植えて地域の施設・集会場・交番に置いていただきます。地域の方々に、神様が創られたこの自然を大切に！という思いを伝えたいと願っています。マーガレット幼稚園に注がれている神様の愛が、子ども達から、先生達から、保護者の皆さんから、地域へと溢れ出ることを、祈ります。

退職者からのメッセージ

元短大准教授
飯盛 茂子

平成20年3月を持ちまして名古屋柳城短期大学を退職いたしました。とても愛着のもてる職場でした。私的な理由から職場を変わるようになりましたが、何よりも先生方が一生懸命、教育に取組まれる姿勢に倣い、私自身の成長になった場であることは言うまでもありません。また、学生の皆さんの笑顔や挨拶から「ともに頑張ろう」という気持ちをもちました。

就任時には100周年行事に参加させていただき、保育の歴史の長い短大であることから多くの卒業生の方々ともふれあう機会を持たせていただきました。続いて100周年の記念誌作成にもかかわらせていただき、その歴史の深さにふれるとともに柳城に思いを寄せられる多くの方の言葉をお聞きました。このようないろいろな

場面で建学の精神が根付いていることを感じました。私としては職場を去るという思いではなく、ここ柳城を卒業し、ふれあった多くの方々からの教えを、場所を替えて育んでいきたいという思いです。また、母校に顔を出すような気持ちで柳城に足を運びたいと思います。ありがとうございました。

元短大特任講師
安藤 昌子

柳城では29年お世話になりました。音楽や保育を通して先生や職員の方々、また多くの学生との出会いから数えきれない多くのことを学びました。学生のみなさんには授業を通して「音楽の技術」を伝えてきました。授業では全員と一緒に音楽を楽しみました。音楽が「楽しい」と思う体験をした学生は、保育者となったとき、きっと子どもたちと楽しい音楽活動を実践し

てくれるものと信じています。音楽活動や音楽療法では、幼稚園や小学校、高齢者施設や療育施設、養護施設を訪問し、みなさんと音楽を楽しむことで心を通わせたことを記憶します。

私自身は今も保育を学んでいるわけですが終わりはありません。ある先生が「保育は奥が深い」と言っておられた意味が今頃になって実感できるのです。これから保育を学びながら「保育につながる音楽」を学生に伝えていこうと思っております。

柳城の見学の精神「愛をもって仕えよ」の言葉は人々のために生きているのだということを教えてくれました。これからも建学の精神である「愛をもって仕えよ」の言葉は私の心に大きな糧となっていくものと思います。これからもよろしくお願いたします。

元附属幼稚園教諭
田中 友紀恵

私は六年間柳城幼稚園で働かせていただきました。

小さい頃からの夢だった幼稚園の先生。この六年間は私にとっての青春だったように思います。私が、建学の精神「愛をもって仕えよ」を感じた瞬間は、毎月の誕生会です。誕生会では柳城幼稚園の隣のマルコ教会で、園児と誕生月の保護者と礼拝をします。子どもたちは、この日を楽しみにしています。牧師の大和田先生がお話をしてくださいますが、先生は、誕生月の子どもたちに、

「誕生日おめでとう。生まれてきてよかったね。」

と声をかけてくださいます。私は、愛をもって仕えることは、共に笑ったり、泣いたりし、共感することだと思えます。「生まれてきてよかったね」という言葉は、これから先、子どもたちに悲しいことや辛いことがあっても、「生きていくだけでいい」という勇気を与えられると感じています。そしてこの言葉は、どんな人にとっても、愛を感じる瞬間なのではないかと思えます。

もう一点は、私が受けもったクラスの中で感じたことです。私は毎日の礼拝の時間や帰り

の会で、その日欠席した子どものために祈りをしていました。何日かすると、子どもたちから「今日〇〇くんお休みだから、みんなでお祈りしようよ。」

と声があがりました。そしてその日から、欠席した子どももいると、誰かが必ず「お祈りしよう」と声をかけてくれるようになります。人のために祈ろうとする子どもたちを見て愛を感じました。子どもたちは、自然と周りの友達や大人に「愛」をもって接してくれます。私は子どもたちからたくさんの愛をもらい、そしてたくさん愛を感じました。この六年間でもらった「愛」を今後も大切にしていきたいと思えます。

元附属幼稚園教諭
山本 麻美

私は5年間、柳城の附属幼稚園に勤務し、この3月で退任しました。

年長組の担任をしていたとき、ある男の子のお母様が話してくださったことがあります。

「先生、うちの子が、遠足の日

が雨になればいいのって言うんですよ。理由を聞いたら、クラスに足をケガしてる女の子がいて、晴れだと運動公園からお休み

しなきゃいけないけど、雨だったら水族館だから、みんなと一緒にいけるんだ！って言うんです。

いつも幼稚園で、お友達のこと大切につけて教えてくださっているから、こんなに優しいことが言えるんだと思います。本当にありがとうございます。」

小さな子どもの心に育った大きな愛情に、私も深く感動しました。

毎日こんなに優しい子どもたちの笑顔に囲まれて、5年間とても幸せな時間を過ごさせて頂いたことに、本当に感謝しています。

ありがとうございます。



元短大職員
渋谷 勝治

種 蒔 き

5年間を柳城短期大学で働くことができたことをあらた

めて心から御礼申し上げます。

入学式、合同礼拝、クリスマス、卒業式、そして毎週の大学礼拝などかけがえのない体験となりました。

かつて私は教会学校の教師をしてきて小さな子どもたちに聖書の物語を語って聞かせてきました。アダムとエバ、カインと

アベル、ノア物語、バベルの塔、アブラハムがイサクを燔祭（はんさい）として主に捧げる話、エサウとヤコブ、モーセ物語、

少年サムエル、石投げ名人ダビデ、王国の滅亡とバビロン捕囚、そしてキリストの出現などを話

すと子どもたちは固唾を飲んで聞いてくれました。どの人物も良いこともそうでないこともあったことを伝えなければいけないからです。

子どもは、一見すると聞いていないかのように思えますが、その魂は、実は、ちゃんと耳を傾けていました。教育は種蒔きにたとえられます。私たちも、

自分の判断で種蒔く時期を決めるのではなく、主の御心に従って、その作業を進める主に仕える農夫でありたいものです。

柳城学院百年史のトップにマー

ガレット・ヤング先生の凛々しいお姿と詩が寄せられています。それは本学のあり方を種蒔きのたとえの詩にされています。

『種 蒔 き』

マーガレット・ヤング

翼ひろげた天使が

愛と真理と光明との

種子をひと粒手に持って

飛ぶのを止めて考えた。

「これが大きくなったら、

すばらしい実がなるように

どこへ蒔いたらよいのだろ」

救い主さま、それ聞いて、にっこりわらっておっしゃった。

「私のためにその種子を子ども

の心に蒔いておくれ」

保護者会より二挨拶



会長
山田 り子

思い描き続けてきた未来への

夢を、現実のものとする為に、娘が選んだのは柳城短期大学でした。

入学して間もなくの頃「ただいま。」の声と共にまるで小さな頃に戻ったかの様に瞳をキラキラ輝かせて、学校での様子を話す娘。

その笑顔は一年経った今でも変わらずに続いています。時には、その笑顔も泣き顔に変わる事があります。

しかし、そんなときも同じ目標に向かって進む仲間がいて、互いに励まし合い、助け合う事が出来て、頑張ろうとする姿が見られます。そして、そんな時、必ず先生方も、優しく、力強く、一人ひとりを見守って下さっています。長い歴史の中で、途切

れる事も無く受け継がれている「愛をもって伝えよ」の建学の精神が日々の生活の中で実践されている先生方の「心」が子供を通じて伝わってくるのを感じることが出来ます。

保育者になる為の専門知識、実習においての実践的な保育技術と共に学ぶ、大切な「心」が学校全体から、自然に備わって

いく喜びを実感し、その日を目指す娘を温かく見守っていきたいと思っています。

本年度、保護者会の会長を務めさせて頂くことになり、保護者会として「教育理想実現」の為に僅かながらでも、学校のお役に立てますように頑張ってます。

いりたいと存じます。何卒、皆様方の力強いサポートを頂けます様お願い申し上げます。

保護者会役員

会長

副会長

会計監査委員

委員

芝原真由美	村瀬まゆみ
西谷 司	村瀬美智代
大槻 正美	坪井 文代
眞浦 秀雄	梅田 康子
加藤 洋子	杉浦 節子
増田 恵子	三輪 裕子
富川 敬子	根本 敏子
岩井由美子	安藤 衣恵
平田 恵子	

卒業生の働き

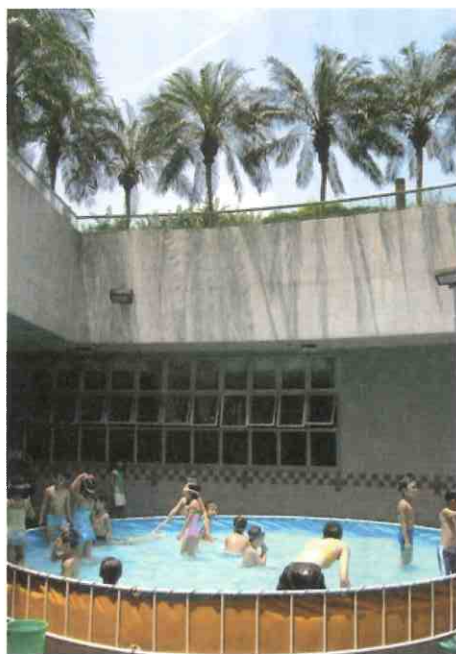
海外で活躍する卒業生

―柳城のこころを世界にひろげています―



1991年保育科卒業
山崎 準子

卒業後、地元の幼稚園に3年、リトミック教室講師4年を経て、中国・大連の日本人学校附属幼稚園に2年。現在、オイスカ香港日本語幼稚園に勤務。柳城を卒業して19年が経とうとしています。卒業時には考えもしなかった”今”に身をおい



香港では珍しい広い園庭にプールを設置して水遊び

ています。母に薦められ受験し、叔母も学んだ柳城の学生時代。なかでも、2年時の実習は印象深いものです。週1日、年間を通じた制度で幼稚園実習ができたことは、柳城生としての誇りであり自慢です。受け入れ園もさぞ大変だったでしょうが、学校と実習園の信頼関係がこの実習体制を築いていたと、今になって確信しています。また、満員電車では邪魔になるほどの宿題（紙相撲セット豪華土俵付きや、木の椅子など）を抱えての通学も、いい思い出です。

さて、最初の職場は園児数100

人以上、15クラスのマンモス園。新卒8人（1）、2年目3人、3年目1人の恐ろしい構成。前代未聞の失敗を交代で起こし、叱られ、涙を流し、励まし合い…。主任は頭を痛めたに違いない…。なにより保護者は不安に思ったことでしょう…。

そんなスタートを切った私が、今なぜか香港にいます。とりわけ、海外で働きたいと強く思っていた訳でもない私が、気がついたら海外生活12年目を迎えます。国の習慣や文化、差別に戸惑うこともありましたが、優しくたくましい中国人とのつながりは楽しいものです。近代的で物も豊富な香港では生活に不便さを感じません。また、海外での保育と言っても、日本人に日本語で保育をしていますので、（気温より湿度の高さで不快に感じる亜熱帯気候以外は）日本となんら変わりません。ただ、子どもの育ちを見守る中で「母語」の大切さがもたらす意味を痛感することは確かです。

日々、保育の悩みは尽きませんが、迷ったり落ち込んだりした時には、柳城の建学の精神

「愛をもって仕えよ」の言葉を胸に気持ちを切り替えて前向きに！と思っています。いつの時代も、どの国にいても、子どもは風や自然のにおいを感じながら、たくさん遊んでケンカして、時には擦り傷を作り、たくましく成長して欲しいと思っています。子どもと共に感でることが私の一番の元気の素なのです。

柳城生初、夫婦で保育者
―柳城のこころを、今、感じています―

2007年専攻科保育専攻卒業
春日井 敏哉

柳城の保育専攻を卒業し、現在、名古屋瑞穂区にある保育園に勤めています。若輩ですが、身の上話を交えて、”柳城”を語らせていただきます。

私の実家は寺院を運営しており、その境内において保育園を営んでいます。私は保育の技術や知識を得たいと考え、柳城とご縁を結ぶ（入



学する）こととなりました。柳城に入学する前は、僧侶になるための大学へ行き、仏教を学びました。「えっ、柳城はキリスト教なのに大丈夫なの」と思われるかもしれませんね。しかし、宗教とは「幸せを得るための教え」であり、宗教の違いはあっても、進むべき道はみな同じです。同じ仲間です。全く問題はありません。キリスト教も仏教も、また他の宗教も互いに歩み寄り、共に歩いて行くことが大切です。

そして、一番大切なのは、私達人間が共に歩いて行くことです。友達とケンカをしても、恋人とケンカをしても、お互いが

愛をもっていれば仲良くできる。子ども達にも愛をもって接すれば愛されることでしょう。柳城の建学の精神「愛をもって仕えよ」は、人としての生き方（在り方）を説いている言葉に思えます。互いに助け合い、人を愛し、人から愛される。人間にとってこれ以上ない幸せです。保育士として、この教えを根本とし、子ども達から愛される存在でありたいものです。

柳城では、厳しくも温かい諸先生のご指導のもと、保育の技術や理論、保育士としての心構え等、多くのことを学びました。また、私は柳城内で出会った女性（保育科及び、2006年介護専攻卒業の東美希）と恋愛の末、去年の11月に結婚しました。同じ職場で、毎日大勢の子ども達と共に過ごしています。嫁と一緒に、園児一人ひとりの将来を考え、お互いの保育について語る時、とても幸せな気持ちになります。入学当初、よく理解できなかった「愛によって仕えよ」を少しは理解できてきたかなと感じる、今日この頃です。

新任教員紹介



短大教授・介護専攻主任

柴田 益江

4月から名古屋柳城短期大学に赴任して参りました。介護福祉教育を担当しています。

私は、介護福祉教育に携わって10年になります。本学院の『建学の精神「愛をもって仕えよ」』という言葉に接し、介護は、介護を受ける人たちの気持ちを考えることが大事であり、そこには「愛」が必要不可欠であると改めて感じています。

ところでキリストにおける「愛」とはなんでしょうか。遠藤周作はその著作の中で、『イエスは、人間にとって辛いのは貧しさや病気であるのだが、それが最も辛く感じるのは、それら貧しさや病気が生む孤独と絶

望である。病を治す奇蹟を行うことではなく必要なのは「愛」である』と述べています。

私はキリストの心は介護の精神を共有しているものと思っています。今後、聖書が説く「愛をもって仕えよ」を私なりに考え、皆様と共に学び、教育に携わっていったらよいと考えています。よろしくお願いいたします。



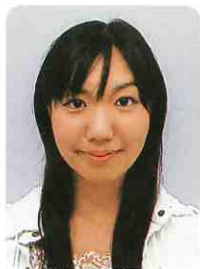
幼稚園教諭
畑 優貴

3月に名古屋柳城短期大学を卒業し、4月から附属の柳城幼稚園に勤務させていただいています。学校で子どもについて、保育についてたくさん学び、先生になりたい」という思いを

叶え、2ヶ月が経ちました。私は年少さんの担任をさせていただいています。子どもたちは何をするとともに目が輝いています。

柳城幼稚園の5月の聖句は「互いに愛し合いなさい」です。年少さんの子どもたちも聖句を覚え、礼拝のときに声を合わせて

言えるようになりました。泣いているお友達がいると、頭を撫でてくれる子もいます。そんな心の優しい子どもたちと出会うことができ、担任が持てることにとても幸せを感じ、責任も感じています。日々、一人一人の素敵などところを見つけられるように心がけています。反省を繰り返して、子どもたちと共に成長し、笑顔であふれるクラスにしていきたいと思っています。



幼稚園教諭
村上 恵里

本年度から柳城の附属園である三好丘聖マーガレット幼稚園

に勤めさせて頂いております村上恵里です。

私は年少22名のちゅうりっぷ組を受け持っています。好奇心旺盛で元気いっぱいの子どもたちに囲まれて忙しくも充実した日々を送れていることを幸せに思っています。

1年目ということでこれから学んでいくべきこと、身につけていくことなどたくさんありますが子どもたちと共に自分自身を成長していけるように努めていきたいと思っています。

今はまだ視野が狭く目の前の出来事に取り組むことで一杯ですが日々、経験を積み重ねていく中で全体を見ながら、個々の子どもものに寄り添い保育を展開していけるようになりたいと考えています。私は毎日子どもたちから、たくさんさんのパワーと愛情をもらっています。そんな子どもたちに私も愛情を注ぎ、これから更に絆を深めていけるように関わっていこうと思います。

短大生だより

保育専攻科

鈴木 菜見子

柳城に入学して4年が経ち、学生のなかでは最年長になりました。学生生活では学業での悩み、友達関係での悩み、自分自身についての悩みなど多くのことに對して悩んできました。しかし、柳城には話を聞いて一緒に悩んでくれる友達や先輩、先生がたくさんいます。特に先生方は昼休み・授業後など、自分の仕事する時間を割いて話を最後まで聞いてくれます。悩みを聞いてもらった後はいつも「このままの自分でいいんだ。明日から頑張ろう」と前向きに考えることができます。時には怒られ、注意されることもあります。が、私たちのためなんだと思えば、私たちが止めています。多くの人々に支えられながら悩みを解決し、学生最後の年を過ごして

います。

4年間この学校で多くの人々に支えられて過ごし、今では柳城の最年長として後輩のために少しでも力になりたいと考えています。実習の心配や学生生活での悩みなど、2、3年前自分自身が悩んでいたことかもしれないので、気軽に話せる存在であり、話がなくても一緒に楽しみ、少しでも支えられる存在になりました。

このように縦の繋がりを柳城全体に広げ、将来的には先生方・卒業生・在校生が一緒になって柳城の伝統である「愛をもって仕えよ」という精神を守っていったらいいなと思っています。そして、柳城で支えてくれた友達や先輩・先生方のように、私も子どもの将来を考え、目の前にいる子どもたちと真剣に向き合える保育者になりたいと考えています。

介護福祉専攻科

青木 万莉

『心の基地』

街の中の大通りを、一步入ったところに柳城があります。その一角だけ静かで落ち着いた雰囲気の家。それが柳城を一番最初に見た時の印象です。

柳城での学生生活も、今年で3年目になりました。思い返すと、初めは保育を学ぶ中で悩みを抱えたり、実家が遠方で一人暮らしのため淋しさを感じることもあり、つらいこともありましたが。しかし、柳城で沢山の友人や先生に出会い、自分の気持ちも変わってきました。それは、「自分を変えることによって、周りも変わってくる」ということを柳城で学んだからです。今では、悩みや問題も目線を変えることで、前向きに考えられるようになりました。

不安定な気持ちになっても絶対に受けとめてくれる、支えてくれる人がいます。苦しくても、安心して帰ってこられる、頼れる場所があります。それが柳城

です。実家の母に電話して「柳城に行かせて良かった。」と言われました。私も、本当にそう思います。

柳城は、何かしら引きつけられる私にとっての心の基地です。これからも沢山の方が、柳城の門をくぐり、多くのことを学ばれると思います。この学舎を訪れた人々にとっても柳城が心の基地になることを願っています。

人事

短大

採用

新海 英行 (学長)
柴田 益江 (教授・介護専攻主任)

退職

永見 勇 (学長)

飯盛 茂子 (准教授)

安藤 昌子 (特任講師)

渋谷 勝治 (特任職員)

森 智恵子 (特任職員)

附属幼稚園

採用

畑 優貴 (柳城幼稚園)

村上 恵里 (三好幼稚園)

異動

池田奈緒子 (柳城幼稚園)

退職

田中友紀恵 (柳城幼稚園)

酒泉 裕美 (柳城幼稚園)

山本 麻美 (豊田幼稚園)

2008年度
主要行事予定

- 4/2(水) 入学式
- 4/9(水)・10(木) 入園式
- 5/25(日) ホームカミングデー
- 6/14(土) 授業公開
- 7/19(土) オープンキャンパス
- 9/6(土) オープンキャンパス
- 11/1(土) 創立110周年記念礼拝・記念講演会
- 11/2(日)・3(祝) 柳城祭
- 11/3(祝) オープンキャンパス
- 11/29(土) 紙芝居フォーラム
- 12/17(水) クリスマス礼拝
- 12/23(祝) クリスマスコンサート
- 2/7(土) りゅうじょう子どもフェスタ
- 3/16(月) 終業礼拝
- 3/17(火) 卒業式・修了式
- 3/18(水)・20(金) 卒園式
- 3/23(月) 修了式(園)

愛を伝える子育て

短大講師

村田 康常

—子育てを通じて感じる愛—

ジョン・レノンという音楽家は、奥さんのオノ・ヨーコさんとのあいだに子どもが生まれると、音楽活動を一切停止して、子育てのパパになりました。子どもが生まれたとき、私はそのことを思い出しました。その頃の私は時間に余裕があり、仕事をしていた妻に代わって、子どもの面倒をずっと見ていました。冷凍しておいた母乳を温めて飲ませ、子どもが寝ている横でパソコンで仕事をし、子どもが起きると一緒に遊び、乳母車で散歩をしました。愛と平和の歌を世界中に広めた音楽家とは比較になりませんが、子育てする自分、まるでジョン・レノンのようだな、と思ったのです。

毎日、赤ちゃんと一緒に過ごすのは、実際、とても疲れることでした。怪我をしないか、危ないことをしないかと、いつも冷や冷やしていました。自由な時間がなくなっていました。自由に感じて、苛立ちもしました。でも、赤ちゃんと一緒に過ご

た時間は、本当に、嬉しい日々でした。子どもが笑ったり、よくわからない言葉で呼びかけてくれたりするだけで、喜びがこみあげてきます。病気になるかと、苦しそうな息をしている様子をみて、自分が代わってやりたいと思いますし、回復すると、看病に疲れてぐったりとなりながらも、やっぱり、とても嬉しく、生命の力はすごいと実感します。子育ての大変さと喜びをはじめて知りました。

赤ちゃんは、お父さんになった自分だけが愛しているわけじゃない、お母さんだけが愛しているわけじゃない、ということも知りました。バスや地下鉄に乗ると、年配の女性が、赤ちゃんを抱っこした私にいつも席を代わってくれました。乳母車を押して散歩していると、一人で歩いているときには決して言葉をお互に聞かずに、次々に、赤ちゃんに声をかけてくれます。そして、私にも言葉をかけてくれます。町内会の用事で近所の家に電話をか

けると、その家の奥さんの第一声は「何かあったの？ 手伝いましょうか？」でした。子どもに何かあったんじゃないか、大変なら、すぐに手伝いに行きますよ、というのです。感謝しながら、ありがたうございます、町内会の用事です、子どもはおかげ様で今日も元気です、と答えました。

お母さんやお父さんは、自分の力だけで、赤ちゃんを愛しているのではない、と感じました。いろいろな人の助けとさまざまな出会いのなかで、とても大きな愛が、この赤ちゃんを取り巻いています。もし、そういう大きな大きな、かたちの見えない愛が、周りから助けてくれなかったら、私も妻も、この小さな小さな命を守りはぐくむことなどできなかったでしょう。そこには、人間の能力や思惑を超えた大きな力が働いています。子どもが生まれること、成長すること、子どもを育てること、家族が新しい家族になっていくこと、みんなが助けてくれること、そうした優しさや配慮や助けのなかに、とても大きな愛が働いていると感じます。

聖書のことは

「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。」(ヨハネの手紙1:4章19節)

新約聖書を開くと、「愛」という言葉をたくさん見つけることができます。けれども、聖書で使われている「愛」という言葉は、わたしたちが日ごろよく使っている「愛」、巷に氾濫している「人と人との愛」、「男と女の愛」といった「愛」とは全く異質の「愛」、「神の愛」を表していることが多いのです。そして有名な「神は愛です」(同4章16節)という言葉がそのことを表しています。

神は独り子イエス・キリストをこの世にお遣わしになり、「神の愛」とは何かを人類にお示しくださいました。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四つの福音書を通してイエス・キリストのご生涯(み言葉、事跡など)を辿るとき、神がいかにわたしたちを愛してくださっているかを知ることができます。イエス・キリストは「神の愛」そのものなのです。

聖書は「神の愛」とは何かを、イエス・キリストを通して語りかけています。わたしたちは神に愛され、受け入れられている存在であり、誰一人として「神の愛」の御手から漏れることはありません。わたしたちが愛することができるのは、まずわたしたちが神に愛され、受け入れられ、一人ひとり、かけがえのない大切な存在として認められているからに他なりません。愛されたことのない者は、愛することができません。愛する術を知らないからです。わたしたちの愛が「神の愛」に裏打ちされるとき、その愛が初めて「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ15章13節)と言われたイエス・キリストに従っていく喜びが湧き上がってくるのです。

「司祭サムエル大西 修」

柳城をPRして下さい

—入試広報課からお願い—

激化する

受験生獲得競争

本年度、愛知県内には保育者養成校が一举に増えました。数年前は、短大・四大・専門学校合わせて23校だったのが、今年は36校にもなったのです。当然募集定員数も大幅増となります。ただでさえ全国の大学のかなりが5～6年の間に立ちいかなくなると言われていたところへ、急にこれだけの学校増となったのですから大変です。高校生が集らなければ、即大学消滅につながるわけですから、どの大学も必死です。受験生獲得にしのぎを削っています。

高校生に柳城受験を おすすめ下さい

柳城は110年もの歴史と伝統を持ち、保育の世界ではトップクラスに位置づく学校であるとして自負しています。ところが、柳

城」という名前は、一般の人にはあまりよく知られていません。

本学へ入学してきた学生に尋ねてみても、かなり多くが、「高校2年生頃迄は柳城を知らなかった」と答えます。

その学生が本学を選んだのは、○家族や親戚の方、知人や友人に良い学校と勧められて。

○ピアノの先生や幼稚園・保育園の先生に、「保育者になるなら柳城」と言われて。

○担任の先生から、柳城は就職率が良く、温かい学校だと紹介されて。

と答え、卒業する時には「柳城で学べて本当に良かった」と喜んで巣立って行きます。

このように柳城を愛し、理解し、勧めて下さる方が、たくさんいらして下さることをうれしく思い、感謝しています。これが110年の歴史の持つ重みなのだと痛感いたしています。

同窓生の皆様、皆様のお近く

に、あるいはお知り合いに高校生がおみえでしたら、ぜひ柳城受験をお勧め下さいませんか。同窓生の皆様のお力が、柳城の財産です。学校もせいっぱいがんばります。

多様な入学試験

—同窓生推薦入試も—

本学の入学試験には、公募制推薦入試・AO入試・一般入試・社会人入試他いろいろな受験方式があります。

その中の一つに「同窓生推薦入試」があります。これは、本学を卒業された方のお子様、お孫様、ごきょうだいを推薦いただく入試方式です。ぜひ入試広報課へお問い合わせ下さい。

オープンキャンパス

学校見学を!!

本学では、7月19日・9月6日・11月3日にオープンキャンパスを実施します。

また、日曜、祝日以外は、いつでもご見学、ご相談に応じています。お気軽にご来校下さるようお勧め下さい。

お問合せ先・入試広報課

2007年度就職状況

本年度も就職率100パーセント

本年度は、保育科、専攻科保育専攻、専攻科介護福祉専攻を合わせて202名が卒業しました。そのうち164名が就職を希望し、全員が自分の希望する職種に就きました。

その中でも特筆すべきは、専門職（幼稚園、保育園、児童施設、老人施設）への就職率の高さです。本年度は98・2％。毎年95％以上の成果を上げていて、これは全国でもトップクラスです。

厳しさを増す就職環境

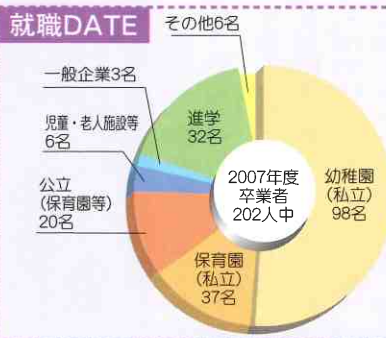
しかし愛知県内の保育系の就職は、今後大変厳しくなると予想されています。それは、保育系の大学や専門学校が増えてきているからです。愛知県内ではここ数年間で新しく14校の保育養成校が誕生し、現在36校になっています。それに伴い、卒業生も増加します。2003年度は2748名であったのが2008年度末には、約3200名の予定です。毎年3000名を超す卒業生が、全員条件の良い専門職場へ就職することはとても困難です。

就職課では、本学の長い伝統と保育現場からの高い評価の上に立ち、保育者としてのマナー、

筆記試験、実技試験への対策、

実技講座、公務員対策講座、きめ細やかな個別相談等々、就職支援にさらに力を注ぎ、柳城生全員のよりよい就職を目指したいと考えています。

就職DATE



	卒業生数 (人)	就職希望 者(人)	就職率 (%)	進学者 (人)	就職希望 なし(人)
保育科	179	142	100	32	5
専攻科	22	7	100	0	0
		7	100	0	0
		15	100	0	1
計	202	164	100	32	6

(2008年3月31日現在)

紙芝居プロジェクト

—最近のトピックスから—



2005年4月に発足した「子ども文化と紙芝居プロジェクト」(実行委員長・髯櫛久美子教授)の活動も、いよいよ4年目に入りました。

●好評「紙芝居ネット」

プロジェクトの成果発信の場である「紙芝居ネット」

(<http://www.kamishibai.net/>)

は、海外からのアクセスもあり、大きな注目を集めています。最近では以下に紹介されました。

朝日新聞(2007年

12月3日付夕刊)

紙芝居、ネットで復活

昭和薫る200作品 名古

屋柳城短大のサイト人気

日経ネットナビ(20

08年1月22日)

おすすめサイト イン

ターネットで楽しむ紙芝

居

また今春より、新たに

紙芝居プロジェクト ニュース

3年連続で「子どもゆめ基金」助成活動に選定されました

紙芝居フォーラム2008のご案内

入場無料(定員 150名)

- 日時 2008年11月29日(土) 13時~16時半
 - 場所 電気文化会館 5階 イベントホール
 - 講師 やべみつり(絵本・紙芝居作家)
- 絵本『かばさん』(こぐま社)などで人気。紙芝居も多数手がけ、1996年第34回五山賞奨励賞受賞。

<プログラム>

講演

「子ども・お話・紙芝居」

講座

「紙芝居を使ってあそぼう」

■申込・問合先

名古屋柳城短期大学

子ども文化と紙芝居プロジェクト実行委員会

フォーラム係 TEL:052-841-2635



『かばさん』(こぐま社, 2001年)

「手作りキッズライブ」

名古屋柳城短期大学主催、

2007年度第1回「手づくり

キッズ紙芝居」コンクール入賞

作品をデジタル化しました。子ど

もたちの「夢」と「想像力」の

つまった作品をお楽しみください。

※下欄に今年度の募集要項を掲

載しています。

●名古屋環境紙芝居

—卒業生が制作しました—

名古屋環境局からの委託事

業として、環境紙芝居『ひみつ

きち』を制作しました。作画を

担当したのは、2007年3月

本学卒業の、橋谷友佳さんです。

現在、名古屋環境学習センター

「エコバルなごや」(Ⅷ052-

223-11066)で上演され

ているほか、市内の幼稚園、保

育園でも出張上演される予定で

す。(図書館・種市)



手作り紙芝居募集します

■募集対象

全国の幼児・小学生

(個人又はグループ)

■応募期間

2008年7月20日~

9月30日(当日消印有効)

■作品

・テーマ自由

・画面数は4~10枚程度

・八つ切りの厚口画用紙又

は厚口ケント紙を使用

・絵は子ども達に描いて頂

き、ストーリーは子ども

が書いても、大人が聞き

取って文章にしてください

いても結構です。

■賞・賞品

最優秀賞 1点

印刷した紙芝居と副賞



2007年度最優秀賞
『くまさんといっしょにわらう』
高村魁(5歳)

■お問合せ

子ども文化と紙芝居プロジェ

クト実行委員会 キッズ紙

芝居係

TEL 052-841-2635

紙芝居『ひみつきち』

(2008年3月31日発行)

企画 名古屋環境学習セン

ター

監修 名古屋柳城短期大学

作画 橋谷友佳

指導 尾上明子

—ある晴れた日、アリ君は仲

間を誘って、ひみつきちを

めざします。小さな生きも

のたちの「ひみつきち」—

柳城学院創立110周年記念

クリスマスコンサート

今年は柳城学院創立110周年を記念してのクリスマスコンサートです。このコンサートはキリスト教主義の学校ならではの行事です。プログラム第一部は本学音楽担当教員による演奏です。

今回のテーマはブラームスの生涯とその作品です。第二部ではクリスマスにちなんだチャイコフスキー作曲「くるみ割り人形」をお話とピアノ連弾でお送りします。第三部は学生によるハン

りゅうじょう
子どもフェスタ

♪こんな自分を好きになれたから、ここからありがとう、つきには自分がだれかの支えになっていきますように♪

恒例になったオリジナルのラストソング。これまでで最も多い115名の意欲的な出演学生の目には、たっぷりの笑顔と少しの涙が光っていました。

第4回りゅうじょう子どもフェスタは、2008年2月9日(土)に、本学体育館で開催されました。

朝から降り始めた雪は、午前の部が終了した昼には、しっか



人形劇「カバ山一家のゆかいな一日」

りと積もり大雪の一日でした。子どもたちの送迎のバスが時間になっても到着せず、大人にとってはたいへんな日でしたが、ボランティアスタッフとして子どもたちに付き添ってくれた学生



パフォーマンス「ひみつのおしごと」

ドベルの響きとクリスマスの音楽をお送りします。クリスマス直前の演奏会ですので、十分にクリスマスの雰囲気味わっていただけたらと思います。卒業生の皆様、昔を懐かしんでは是非ご来場ください。又、多くのお知り合いの方々をお誘いしてクリスマスの一時をお楽しみください。一同でお待ち申し上げますや会場係を引き受けてくれた学生のおかげで、子どもたちにとっては「思い出深い一日」になりました。

今回のプログラムは、劇、人形劇、パフォーマンス、ミュージカルの4作品。構成、脚本、音楽、衣装すべてがオリジナルなのは毎年のこと。創作と練習にかけた膨大な時間が、表現力

おります。

日時：12月23日(祝)

午後3時開演

〔2時30分開場〕

場所：名古屋市芸術創造センター

〔地下鉄「新栄町」下車・北へ徒歩3分〕

お問い合わせ先：名古屋柳城短期大学 学長室

入場無料



ミュージカル「よみがえれ! キャッツタウン」

をも高め、すべての人に感動を与えました。

第5回りゅうじょう子どもフェスタは、2009年2月7日(土)に、創立110周年行事のひとつとして本学体育館で開催されます。りゅうじょうのパワーに会いに来てください。(お問い合わせ先：鈴木裕子研究室)

お願い

●今号に関するご意見などをお寄せ下さい。

●「建学の精神を感じた瞬間」という題でご投稿頂けないでしょうか。今号でも随所に見られますように、具体的なエピソードをお待ちしております。学院報だけではなく、入学(園)案内やホームページなどへの掲載を前提にお書き下さい。

〒466-0034

名古屋市昭和区明月町2-54

学校法人 柳城学院

法人事務局(加藤)

FAX: 841-2697

Eメール

(加藤 学内専用アドレス)

: 2006fish@ryujo.ac.jp

●柳城学院のホームページには、ホットで詳しい情報が満載です。ぜひご覧下さい。検索キーワードは「柳城短大」です

2007年度会計報告

資金収支の状況

(単位千円)

	科 目	2006 年度	2007 年度
収入の部	学生生徒納付金	566,531	593,070
	手数料	12,939	11,232
	寄付金	6,012	7,749
	補助金	163,549	171,193
	資産運用収入	1,443	3,025
	資産売却収入	0	700,000
	事業収入	21,953	26,567
	雑収入	24,718	8,294
	前受金収入	144,083	137,290
	その他の収入	3,909	32,766
	資金収入調整勘定	△ 155,625	△ 151,652
	前年度繰越支払資金	1,035,818	1,084,499
	収入の部合計	1,825,330	2,624,033
支出の部	人件費	440,636	431,323
	教育研究経費	141,076	148,316
	管理経費	37,137	34,404
	借入金利息	6,416	3,207
	借入金返済支出	89,286	116,513
	施設関係支出	14,277	3,112
	設備関係支出	10,912	15,599
	資産運用支出	1,512	699,218
	その他支出	10,394	11,650
	資金支出調整勘定	△ 10,815	△ 10,446
	次年度繰越支払資金	1,084,499	1,171,137
	支出の部 合計	1,825,330	2,624,033

2007年度決算を振り返って

① 収支の状況：2007年度の帰属収支差額は144,064千円、消費収支差額は96,436千円となり、収支は引き続き安定した状況で推移しています。これは、学生・園児数が順調に与えられて学生生徒納付金、補助金を中心に収入が安定していることによるものです。支出面は大きな変動がなく、教育研究費比率は25.8%と例年通りの水準を維持しています。

② 資金の状況：今年度、借入金の繰上げ返済を91,050千円実施し、次年度繰越支払い資金は1,171,137千円となりました。固定資産への投資が少なく、支払い資金が増加しております。

③ 財産の状況：上記の収支状況を受けて、バランスシートはかなり改善されました。2007年度末の総資産は2,979,843千円と微増に止まりましたが、自己資本は2,548,128千円に増加し、自己資本比率は85%となりました。資産の構成比率では、将来の投資負担に備えて流動性の比率を高くしております。

消費収支の状況

(単位千円)

	科 目	2006 年度	2007 年度
消費収入の部	学生生徒納付金	566,531	593,070
	手数料	12,939	11,232
	寄付金	7,559	8,313
	補助金	163,549	171,193
	資産運用収入	1,443	5,349
	事業収入	21,953	26,567
	雑収入	24,732	8,294
	帰属収入合計	798,706	824,018
	基本金組入額	△ 94,024	△ 47,628
	消費収入合計	704,682	776,390
消費支出の部	人件費	432,333	430,072
	教育研究経費	205,900	211,049
	管理経費	37,955	35,200
	借入金利息	6,416	3,207
	資産処分差額等	690	426
	支出合計	683,294	679,954
	当年度消費収支差額	21,388	96,436
	前年度繰越	〃 434,502	413,114
	翌年度繰越	〃 413,114	316,678

貸借対照表の推移

(単位千円)

		前年度末	当年度末
資産の部	固定資産	1,844,315	1,800,928
	流動資産	1,117,328	1,178,915
	(内、預金)	(1,084,499)	(1,171,137)
	資産合計	2,961,643	2,979,843
負債の部	固定負債	371,638	268,406
	(内、借入金)	(207,810)	(105,830)
	流動負債	185,940	163,309
	負債合計	557,578	431,715
資本	基本金	2,817,179	2,864,806
	消費収支差額	△ 413,114	△ 316,678
	資本合計	2,961,643	2,979,843

理事会より

理事・元学長（1994～1996）

小林 哲也

本年は学院が保母養成を始めて110年、短期大学が創られて55年となり、いくつかの記念事業が計画されていますが、この学院の歴史の一つの重要な節目にあたって、これまでに培われてきた伝統を想い、その上に立つて学園の未来像を描くことが必要ではないかと考えています。

なかでも、これは一理事としての私見ですが、四年制大学課程の併設に関しての方針を理事会として、そろそろ決定しなければならぬのではないかと考えています。私の記憶によれば、四年制大学を近い将来に実現したいということについての合意は、すでに10数年前から理事会内にあったと思います。そしてこの間に、法人と大学の名称の柳城学院・名古屋柳城短期大学への改称、短期大学保育科の学生定員の200人までの増加、幼児教育と介護福祉の両専攻科の設置、共学制の導入、三好丘聖マーガレット幼稚園の新設、園舎・校舎の増・新築などがなされてきました。私は、これらを四年制大学課程の新（併）設の前提条件の整備と理解してきました。

四年制課程の理念や目的、必要性などについては、この間の学報に寄せられた代々の学長の文章や、2003年5月の中・長期計画委員会の報告書「柳城学院の中・長期計画の概要」や短大の自己点検・評価委員会の各年度の報告書「名古屋柳城短期大学の現状と課題」などがあります。

す。しかし、この1・2年は新設大学課程の見直し案がまとまらず、とくに昨年度は短期大学基準協会による第三者評価の審査準備に忙殺されて、四年制大学の検討は凍結状態となって今日にいたっています。

幸い基準協会の審査に合格し、本学の経営・管理、学生への指導・教育についてよい評価を受けることができ、喜ばしいことでした。その勢いを借りて、いってはいかぬ少し場違いな表現かもしれませんが、懸案の四年制大学案を検討してどうかと考えています。もちろん多くの新設の短大や大学が学生定員を充足できないでいる時代に大学をつくることの困難さは、10年前に比べて厳しさを増すことこそあっても、決して楽観視できるようなものではありません。

しかし、少子化の進むなかで、いや、進むからこそ、幼児の教育や福祉を担当する専門家の養成に大きな期待がかけられています。幼児の教育は、家庭教育や学校教育、あるいはコミュニティ住民の福祉とのつながりにおいて、ますます高度な専門性を求めています。それと同時に、人と人をつなぐ職業の従事者として、人間としての深い教養が期待されてきていますが、それこそ、先輩たちが培ってきた「愛をもって仕えよ」の精神によって養われるものと思います。



目次

理事長メッセージ	1
新学長からのメッセージ	2
同窓会だより	3
保護者会よりご挨拶	13
理事会より	22

●創立110周年記念特集

・創立100年から110年へ	4
・生き続ける建学の精神！	5
・110周年に寄せて	7
・110周年記念事業について	9

●トピックス

・附属幼稚園だより	10
・退職者からのメッセージ	12
・卒業生の働き	14
・新任教員紹介	15
・短大生だより	16

●お知らせ

・人事	16
・2008年度主要行事予定	16
・「柳城をPRして下さい」	18
・2007年度就職状況	18
・紙芝居プロジェクト	19
・クリスマスコンサート	20
・りゅうじょう子どもフェスタ	20
・お願い	20
・2007年度会計報告	21

●コラム

・愛を伝える子育て	17
・聖書のことば	17

理事会より	22
編集後記	22

編集後記

今号より、従来の「学報」から「学院報」へと改め、法人全体の広報誌という性格を強めることになりました。

それに伴い編集方針も見直し、全体のバランスを重視しながら学院本来のミッションを前面に押し出す紙面作りに心がけました。この思いは届きましたでしょうか。

原稿の内容は言うまでもありませんが、それを頂戴する段階においても、本学院の「建学の精神」を何度も感じられたのは恵みでした。ご家族の病気を案じながらのご寄稿などは、その典型です。何度も温かいEメールをお送り下さった方もみえました。

学院報に携わった全ての方々には、ご多忙のところ無理な注文をしました事を心に記すると共に、ご協力に感謝いたします。「柳城」にかける皆さんのベクトル（思い）を合わせ続けるには不断の努力が必要です。

言い訳がましいですが、聖書の偉大な言葉で今号を終わりたいと思います。「狭い門から入るなさい。」（マタイ7・13）（K）